

おばあちゃんとの約束

山本 奈津美(三重県松阪市17歳女性)

「約束」というと、私が小さい頃におばあちゃんとした、可愛らしい約束を思い出す。「はぐれたらあかんで、大人の人と手繋いで歩かないな」「九九が書かれている下敷を小学二年生の私に買ってくれたとき」これは絶対学校に持ってたらあかんに「他にもたくさん約束をしてきた。今でも「勉強は二の次。まず体を大事にしやなあかんに」などと、おばあちゃんと約束をする。私は本当におばあちゃんっ子で、おばあちゃんに褒めてもらいたくて、おばあちゃんに言われたことはキチツと守ってきた。このたくさんさんの約束の中で、今でもその時の情景までハッキリと覚えている「約束」がある。

たしかあれば、小学校三年生のお正月。その年の春に、私は四年生に上がった。毎年お正月には、おばあちゃんのところへ遊びに行き、おじいちゃんやの運転する車でいろいろんな場所に連れて行

とまったく同じだった。しかし、この次の言葉で、おばあちゃんはやっぱ違う、さすが母の母だと私は思った。『でもな、本当に耐えられやんようになって、もう死にたい思ったら、ばあちゃんに言うておいで。ばあちゃんも一緒に死ぬから。』この言葉を聞いたとき、自分の頭がジンとなったのがわかった。私はうんと声を出すこともできず、黙っておばあちゃんと指切りげんまんをした。そしてまた、車内はシンと静まり返った。

私の記憶はそこで終わっており、その後、皆でどこへ行つて何をしたのかは覚えていない。ただ、おばあちゃんとの約束だけが頭の中をぐるぐる回っている。おばあちゃんはずいぶん、この言葉を選んで私に言ったのだらうか。この記憶がよみがえるたびに、私は疑問に思う。以前、親戚の葬式で『なつちゃんも少しおらんようになったら、皆が悲しむんやに。ばあちゃんがいくら泣いても、なつちゃんは帰ってこやん。やから、自分の命を大切にしやなあかんに。』と、おばあちゃんが私

に言ったことがある。おそらく、この言葉がおばあちゃんの本望なのだろう。でも、私の人生は私自身がコントロールするものである。そして「自ら命を絶つ」ということは、自分の大切な人までも、私の場合、大好きなおばあちゃんも失ってしまう。自殺はこのくらい覚悟が必要なのだ。最近まで、新聞やニュースで毎日のように、学生の自殺が取り上げられていた。私はニュースを耳にするたびに心がすごく痛んだ。死ねば、自分はずっと楽になる。もう何も残らないから。でもこの世に残された家族や友人は、一生

来週の予定:5月17日(月)~21日(金)

日	曜	行 事
17	月	普通時程 時間割通り 1校時学活 放課後国語質問教室
18	火	普通時程 時間割通り 1校時道徳 放課後質問教室 理(男子) 英(女子)
19	水	普通時程 時間割通り 放課後質問教室 理(女子) 英(男子)
20	木	中間検査一日目 1:数 2:英 3:理 ※1 給食無し
21	金	中間検査二日目 1:社 2:国 3:総 4:学 ※2 給食有り ※3 英検 13:45~